

市民が訪れたいくなる庁舎&市役所本来の役割を発揮する庁舎

誰にとっても分かりやすく 機能的な庁舎にしたい

誰もが心地よい空間

来庁者が心地よい空間整備

- ・誰もが安心して利用できるゆとりある設備
(待合スペース、椅子、授乳室、トイレ、子ども用家具等)
- ・来庁者のコンシェルジュやインストラクター
(様々な手続きが機械化しても丁寧に使い方・情報を教える人の確保)
- ・自然採光、自然換気などを感じる空間整備
(光、風など自然を感じる庁舎)

わかりやすいデザイン

動線を分かりやすく、便利に

- ・来庁時にどんな交通手段で来てもスムーズにたどり着ける工夫
(駐車場、駐輪場、バス停から、段差なく傘なしでたどり着ける工夫)
- ・庁内に入ってから目的の場所までスムーズにたどり着ける工夫
(バリアフリー、標識、サイン)

統一感のあるデザイン

- ・色やフォント、サイズ、素材などの統一、ルールをつくる

わかりやすい情報の整理と発信

- ・ポスターやチラシの掲示方法のルール作り
(ポスターの掲示場所を限定する・チラシは情報の内容によってわかりやすく整理する)
- ・大型掲示板を設置する
(現在行われている政策、イベントの紹介等の情報を発信)

様々な人がつどい 対話が生まれる庁舎にしたい

さまざまなスペース

市民同士の交流スペース

- ・多目的に使えるエントランス・インパクトのある広場
(メディアコスモスとの連携・パブリックビューイング・映画の試写等)
- ・市民が使える交流スペース
(ママ友会議・子どもの遊び場など)
- ・閉庁後も市民が使えるスペース
(展望室、レストラン、市民交流スペースと執務スペースの動線のすみわけ)

職員同士の交流スペース

- ・開放的な会議室
(大きなガラス張りの会議室・ホワイトボードなどを設置した打ち合わせコーナー)
- ・職員の休養室
- ・縦割り行政を解消するような間仕切りのない執務スペース

市民と職員の交流スペース

- ・誰でも使えるカフェやレストラン
- ・展望台
- ・ワークショップルーム

運営による工夫

積極的な情報開示

- ・各課の業務内容の紹介
- ・行政計画の進捗状況の見える化

市民のよりどころとなる 庁舎でありたい

ゆとりある執務空間の整備

- ・職員が仕事をしやすい機能的でゆとりある執務スペース
- ・市民のために効率よく仕事ができる環境整備
(職員の快適な職場環境の充実は結果として、市民サービスの向上につながる)

シンボルとしてふさわしい庁舎

- ・誰しもが岐阜市庁舎とわかるものにする
- ・岐阜市の歴史文化を感じる空間
- ・開放的で景観に配慮された岐阜らしい外観
- ・岐阜市の資源である地下水、自然の風、太陽光などのエコエネルギーの活用

安全・安心

非常時のよりどころ

- ・災害時に頼りになる庁舎 (情報の収集・発信、物資の確保)

市民が参加する庁舎づくり

市民とともに作り、市民が愛着をもつ庁舎

- ・行政と市民がフラットな関係で行うワークショップ
(次の詳細設計に向けても、今回のワークショップのように「市民」、「行政」、「設計者」などが意見を出し合えるワークショップの開催)
- ・市民が市庁舎建設に関わる機会作り
(芝生貼り、植樹、カーペット貼りなど)
- ・市民の思い出となる場 (結婚式・成人式・発表会など「ハレの場」) を作る
(市民が活用するにあたり、出来る限り制限をなくす)